

2022 年度第 3 回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

2023 年 1 月 25 日（水） 書面開催

2 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

3 議事

(1) イノシシの生息状況調査結果について（速報）

発言者	意見・コメント	回答
東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	<p>説明中、「ユニット 3 では大きく増加、ユニット 1 では根絶に近い状態」とありますが、その原因をどのように解釈すべきでしょうか。</p> <p>例えば、ユニット 1 から 3 への群れの移動、それぞれの純増(原因は?)、純減、等。</p>	<p>ユニット 1 では、移動防止柵により、分断されている効果に加え、イノシシにとって生息環境がよい条件ではないと考えています。</p> <p>一方で、ユニット 3 では、ユニット 1 に比べ生息環境が良く、生息頭数が回復した可能性があると考えています。</p>
有識者	<p>自動撮影カメラにより得られた RAI について、大山山塊の移動防止柵の設置前後のデータがあるようなら、データを比較してみてもどうか。移動防止柵設置による効果が見えてくるかもしれない。</p>	<p>移動防止柵を設置する前（2019 年度）と設置後（2020 年度以降）で RAI を見てみると、大山山塊の東側では低下傾向にあり、移動防止柵による効果である可能性があると考えています。</p>
東三河農林水産事務所 農業改良普及課	<p>REST モデルの推定結果で大山北部のイノシシ生息密度が減少したとあるが、フィールドサインなどでも減少した傾向はみられるのか。また、生息密度が減少している場合、理由として想定されるものは何か。</p>	<p>フィールドサイン調査による痕跡密度は、前年度と比べ増加、RAI については前年度と比べ減少しており、異なる傾向を示しています。</p> <p>フィールドサイン調査や自動撮影カメラによる調査等各種調査について、それぞれ調査範囲が異なるので、指標によって異なる傾向を示す場合もあります。</p> <p>なお、各種指標の中で、REST モデルによって推定された生息密度が最も精度が高いとされています。</p> <p>生息密度の減少は、捕獲頭数が前年</p>

		度と比べ増加しているなので、捕獲による効果も出ていると考えています。
--	--	------------------------------------

(2) イノシシの捕獲に係る取組状況について

発言者	意見・コメント	回答
東三河農林水産事務所 田原農業改良普及課	説明中、「半島全域で捕獲頭数が増加している中、赤羽根や田原東部で減少」とあり、その理由として「生息頭数の減少や捕獲圧の低下が考えられる」とありますが、そのように判断した背景はどのようなものでしょうか。	地元市から地元の状況について、以下のとおり確認しました。 ①赤羽根については、ワナの稼働は例年どおりで、目撃情報も少ないことから生息頭数が減少している可能性がある。 ②田原東部については、ワナの稼働が低下しており、目撃情報が増加していることから捕獲圧が低下している可能性がある。

(3) その他

発言者	意見・コメント	回答
	意見・コメントなし	

【参考】移動防止柵設置前後のRAIの推移について

